

5月企画展

4月28日(土)～5月13日(日)
(月曜休館、祝日の場合は翌日休館、入館無料)

黒岩 裕美子 素描展

鉛筆・コンテ・ペン・他 による素描約80点

5月の久我記念館企画展は、4月28日から5月13日まで
黒岩裕美子さんの個展を開催します。



線が生まれ 消え去るところ

「一線の欲望、つまり線がはじまろうとし消え去ろうとするところを探らなければならない。そしてその源を確めなければならない。」

アンリ・マチス 「画家のノート」より

2004年「盲者の記憶 人体素描3人展」で須恵町の皆様をはじめ、多くの方々との出会いがありました。

それから3年、私は相変わらず闇をまさぐるように素描を続けています。

私にとって素描とは、数えきれない線をはきだし、その線の行方を見つめ、根源を確かめることのようにです。

この度、5月の緑の中で皆様と再会できることを楽しみにしています。

プロフィール

1954 福岡市生れ
1976 武蔵野美術大学油絵専攻卒業
宗像市在住

4月の企画展

福島 佐紀子 展

4月7日(土)～22日(日)
(月曜休館、入館無料)

緑を守り音こゝろ

旅石八幡宮の全樹林



左から旅石八幡宮(手前)、^{たてこうきくら} 竪坑槽(奥)、ボタ山

保存樹と保存樹林、今回は旅石八幡宮の樹林です。
県道須恵志免線の旅石バス停の高台に、旅石八幡宮があります。
神社の由来によりますと、八幡宮は天正14年(1587年)岳城が落城した際に戦火のあおりを受けて焼失し、資料も灰になつてしまい、創立の年代や沿革などは詳らかではありません。

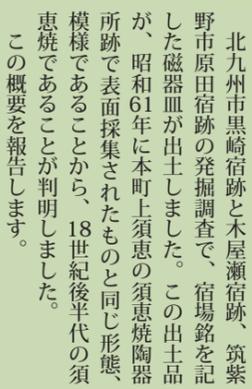
神社は、昭和6年(1931年)に再建され、昭和50年には鉾書復旧工事による大改造を経て現在に至っています。
境内には、樹齢100年を超える9株の大楠をはじめ、サクラ、ヤブツバキ、タブ、ムク、トリモチ、エノキなどの古木を中心に、280～300株の樹木が生い茂つていて、これらの全樹林が保存樹に指定されています。
筑前国統風土記付録によりますと、境内には神木のモツククがあります。木は、幹周りが2メートル、7つの股に枝分かれして非常に珍しがられたと記されています。八幡宮の世話人は、現在は全く見当たらず、どこにあって、いつごろ消えたのかも分からないと話しています。
旅石八幡宮の保存樹林は、古木が多いために、年々、台風などによる痛みがひどくなっています。土地が平坦な旅石地区には、ほかに森林はなく、ここが唯一の鎮守の森だけに、今後どう保存していくかが課題です。
ところで、旅石八幡宮の森を東側の須恵川沿いから眺めますと、国の登録有形文化財として保存が決まった国鉄志免炭鉱の竪坑ヤガラとボタ山が、同時に望めるようになっていて、そのコントラストは、ある種の郷愁をかきたててくれます。
(須恵町自然教育推進協議会)



考古学

速報!! 「宿場銘の入った須恵焼を発見」

黒田藩御用窯で焼いた本陣専用の皿



須恵焼

北九州市黒崎宿跡と木屋瀬宿跡、筑紫野市原田宿跡の発掘調査で、宿場銘を記した磁器皿が出土しました。この出土品が、昭和61年に本町上須恵の須恵焼陶器所跡で表面採集されたものと同じ形態、模様であることから、18世紀後半代の須恵焼であることが判明しました。
この概要を報告します。

▼裏銘に消費先の名を記した例は無く、大変珍しい。焼物の裏側に文字(裏銘)が書かれているものがあります。裏銘に消費先(使用地)を書いた例はほとんど無く、さらに、消費先を宿場に限定している事例は初めてです。

▼福岡(黒田)藩の御用窯と宿場管理を示す資料。出土品の大半は皿で、その形態や模様構成は全て同じです。福岡藩は、江戸時代に、藩内の各宿場の休泊施設用の焼物を筑前須恵焼窯にて一括生産させ、各宿場に配布していたと考えられます。福岡藩の意向が反映された、須恵焼の生産や配布で、管理体制が分かる資料です。

資料を展示します

発見!! 「宿場銘の入った須恵焼」展

期 日 3月27日(火)～5月6日(日)

10時～17時

会場 須恵町立歴史民俗資料館

開館日変更のお知らせ

本年4月から、歴史民俗資料館の休館日が変わりました。

休館日 月・火・水曜日(祝日の場合は開館します)